

門の指導者が全市にいる。町においては、51町中20以上の町に、音楽、演劇舞踊部門の指導者がいない。村においては、29村中半数の村に、演劇、舞踊、文化財部門の指導者がいない（表5-1-7）。

また、部門別にみると、指導者の最も多い部門は、生活芸術部門で、指導者全体の30.9%を占めている。次いで、美術20.8%、音楽13.4%の順である。指導者が最も少ない部門は、演劇5.2%である。

表5-1-8 地域別・部門別指導者数

(単位：人)

これを地域別にみると、いわき、相双地域は、演劇部門の指導者が少ない。南会津地域は、音楽、舞踊、文学の部門に指導者が少ない（表5-1-8）。

地域	部門	音楽	演劇	美術	舞踊	文学	生活文化等	文化財	計
県北	北	55	24	95	29	37	87	39	366
	中	33	19	74	21	26	99	33	305
県南	南	34	8	45	14	25	90	40	256
	津	76	34	101	20	52	100	65	448
南会津	津	8	12	34	8	8	75	19	164
相双	双	25	5	67	18	46	165	40	366
	いわき	28	2	12	13	23	12	13	103
合計		259	104	428	123	217	628	249	2,008

従って、今後は、全市町村に文化各部門の指導者が存在するように、指導者の

注：「文化課調査」(昭51)による。

発掘と育成を促進するとともに、各地域の特性に応じた文化活動を振興し、各部門の文化活動の普及と向上を図るために、各地域に、指導者が確保される必要がある。

#### (4) 指導者の研修

県民の文化活動の活発化に伴い、指導者を求める声が高まっている。県においては、これら文化活動指導者が地域文化振興に果たす役割の大きいことにかんがみ、特に、実作技術、指導技術等を中心として、従前より、彫塑、日本画、合唱等の研修事業を行ってきた。これを、昭和47年度文化課発足とともに「青少年芸術文化リーダーのつどい」として拡充し、文学、美術、音楽、演劇、舞踊の各部門について、実技、実作を通しての指導者研修事業を推進してきた。また「伝統工芸指導者講習会」(陶芸、漆芸)を昭和48年度より実施し、工芸美術の振興に努めてきた。

昭和52年度よりは、これを更に統合して内容の充実を図り、「芸術セミナー」と改称し、県内各地で、文化活動を自らも行い地域文化活動を推進している中堅指導者に対して、文化活動推進上の知識、技術の研修の機会を提供し、資質の向上を図ることを目的に、実施することになっている。

「青少年芸術文化リーダーのつどい」の参加者は、表5-1-9のとおり、累計1,101人である。「芸術セミナー」は、文学(小説・詩・短歌・俳句)、美術(彫塑・日本画・洋画・工芸)、舞踊(民踊)、演劇(新劇)、音楽(合唱)について、部門ごとに、年1回として県内各地区中心地で、順次開催することとしている。

従って、ますます高まる県民の文化活動のために、より良き指導者が求められているので、芸術セミナーの充実を図り、方部指導者の資質向上に努める必要があり、各市町村でも積極的な指導者確保についての努力が期待される